

の更新時期は、具体的には未定ではあるが数年程度と考えている。今回の改修では、まずは、大型スクリーンを用いた映像表現により、万葉の世界にいざなうことを重点としたもので、VR等の活用は、今後の更新の際に検討したい。

○ 地元だけでなく、観光客に再訪してもらえらる仕組みづくりをお願いしたい。(要望)

○ 万葉体感シアター内でイベント、ミニ講座などを開催する際の収容人数は。また、改修後の展示室の更新頻度及び更新の際の告知方法は。

△ 万葉体感シアター内での収容人数は、椅子等の配置にもよるが、設計段階で最大で100名程度を想定している。

新しい展示室(仮称)は、改修後は常設的な展示室となる。そのため、短期的な更新が可能な展示スペースを一部に設けるものである。現在、回廊やラウンジを使って2～3カ月程度で企画展示を行っており、展示内容にもよるが、それくらいの頻度を目安に新しい展示ができるよう検討していきたい。展示替えの告知については、現在も、チラシ、ホームページやSNS、万葉歴史館独自のブログなど様々な手法で周知に努めており、今後も同様に取り組んでいきたい。

○ 来春コロナの状況次第で万葉体感シアターの収容に影響があるかもしれないことを考慮すると収容はどの程度を想定しているのか。

△ 現在もコロナ対応として、休憩スペースなどソーシャルディスタンスをとった配置をし、入口での検温などの対応を行っている。イベントやミニ講座などその時々の催しの内容に合わせて、随時対応していきたい。

○ 万葉歴史館の平成30年度、令和元年度、2年度9月現在の入館者数は。また、リピーター確保のために行ってきた取組みの経過は。

△ 令和2年度はコロナ禍の影響もあり、入館者数は4～9月で4,677人である。10、11月は団体予約も若干であるが入ってきている状況である。

令和元年度は63,336人、H30年度は22,736人である。また、万葉歴史館では、館長や研究員による講座や外部講師によるセミナー、話題性のある多様な企画展示やイベントのほか、音楽コンサートを実施するなど、万葉集を様々な角度から楽しんでもらえるよう、また施設に足を運んでもらえるよう、工夫した対策に取り組んでいる。

〈 当局から、次のとおり報告・説明があった。 〉

[産業振興部]

◦令和2年度コロナ禍における観光誘客施策の主な取組みについて

〈 委員から次の質疑等があった。 〉

○ 高岡市団体旅行誘致促進事業補助金及び「高岡に泊まろう！宿泊応援キャンペーン」の状況は。

- △ 高岡市団体旅行誘致促進事業補助金は現在、約 30 件の申し込みがある。「高岡に泊まろう！宿泊応援キャンペーン」は、7月約 1,200 件、8月約 1,700 件である。9月は集計中である。
- 「高岡に泊まろう！宿泊応援キャンペーン」の 1 人 1 泊 1,000 円割引の財源は。また、全国規模で国、県が同様にキャンペーンを実施しているが、本市は、財政健全化の途上にあつて、観光振興に市独自の一般財源を割くよりは、コロナ禍のなかで弱者への対策を優先すべきであり、整合性がとれるのか。
- △ 「高岡に泊まろう！宿泊応援キャンペーン」にかかる補助の財源は、国の新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金である。
- 観光振興施策にいろいろ取り組んでいるが、コロナ禍で宿泊施設が特に打撃を受けていることから、その支援策の 1 つとして実施するものである。市内での消費の回復につながるものとして、産業施策、商業施策、観光振興施策でもあると認識している。県が実施の宿泊割引キャンペーンは、1 万円以上の宿泊が対象で、少額で宿泊できるホテル・旅館はなかなか恩恵を受けることができないことから、市内には 1 万円未満の中小規模のビジネスホテルや旅館に対し支援に取り組んでいる。効果は実績からも見えてきており、事業者からは助かっているとの声も聞かれる。観光だけでなく裾野にある事業者への支援ということでご理解をいただきたい。
- 財政健全化を進める本市が全国的な取り組みに参画することに対し、いかななものかという意見もある。実態として観光事業者以外にも多くの事業者がコロナ禍で大変な思いをしていることも踏まえ、慎重に対応してもらいたい。
- △ 事業実施の際は、財源、現在の経済状況を踏まえ、総合的な観点から精査しながら適切な対策を講じていきたい。
- 観光は裾野が極めて広く、観光産業だけにとどまらない。物販、飲食、交通関連事業など波及効果が大きい。観光客、インバウンドも含めて何人来ればどれだけの経済への波及効果があるか分析すべきである。観光業界への支援は地域経済の底上げになる。そのことを理解して、実施中の施策について自信をもってやってほしい。また、GDP は最悪の落ち込みである。なかでも消費の落ち込みが深刻であり、観光に限らずいろいろな産業に影響がでる。この点からも国の責任が大きい。継続的な持続化給付金の交付により、国、地方両方から支援していくことが大事である。国への財政支援を積極的に求めるべきではないか。
- △ コロナ禍の影響は予測しがたいものがあるが、経済状況を見極めながら、観光を含む地域産業を支援していく必要があり、国、県も同じ認識のもと財政支援が講じられていると聞いている。必要なものは市長会等を通じて要望しながら、そのうえで、市でできることを見極めて財政支援を行うことにご理解をいただきたい。
- 産業連関分析をやってもらいたい。中小企業診断士の資格をもつ市職員や専門家の力を借りて、経済波及効果について数字を出していくべきではないか。
- △ 事業実施にあたっては、分析のうえで、必要に応じて選択していくことになる。様々な分析手法があり、今後の検討対象としたい。

- 観光業界は裾野が広いのは承知している。ただ、「高岡に泊まろう！宿泊応援キャンペーン」の宿泊対象施設が 25 施設しかないことが気になった。事業に対する経済効果を数字で表せることができれば納得できるので検討していただきたい。
- △ 波及という面では数字で見えないもの含め多々あるものと認識している。キャッシュレス決済の還元ポイントでは 20 億の経済効果という数字も出ているが、本事業なども実際測れるものかどうかについては検討対象にしていきたい。
- 「高岡おもてなしクーポン券」事業について、市内でクーポンを紹介するものを観光客に渡しているのか、また、「高岡雅美」などの体験はすぐに対応できる仕組みができているのか。
- △ それぞれの宿泊、観光施設に観光パンフレットやクーポン内容のチラシを配架しており、迷いなく利用できるものと考えている。「高岡雅美」を利用した体験は受け入れ側の態勢もあり事前予約をお願いしている。
- クーポンが使えない結果とならないよう、また、リピーター確保にもつながるよう工夫をお願いしたい。(要望)

〈 当局から、次のとおり報告・説明があった。 〉

[都市創造部]

・高岡市歴史的風致維持向上計画（第2期）の策定について

〈 委員から次の質疑等があった。 〉

- 第2期計画（案）において、伝統産業の後継者不足、祭礼の継承、担い手不足を現計画の課題としているが、今後の対応は。
- △ 現在、産業振興プランの改定を進めており、その中でも同様の課題がある。現在、対策は検討中で、意見をとりまとめている最中である。地域コミュニティやまちづくりなど大きな観点から支援継続を考えていく必要があると考えている。
第2期計画（案）は、課題に対する取組方針を打ち出しており、具体的事業は今後、各担当部局が随時加えていく。いろいろな意見を参考にしていきたい。
- 高岡御車山祭など苦慮しているとも聞いている。全部局が連携した取り組み、若手を巻き込んだ取り組みに配慮していくことが肝要である。部局を超えた取り組みを期待している。文化芸術基本法4条には国は地域の実情に応じ主体的に取り組むと明記しているが現場では担い手がない状況にある。担い手確保に向けて努力してほしい。(要望)
- 第2期計画の目的に記載されている、赤レンガ建物以外に利活用を検討しているものはあるのか。
- △ イメージとして、山町筋の山町ヴァレー、金屋町のビール店・体験宿泊施設など古民家等を利活用した取り組みであり、このような歴史的建築物の活用を図る

ことで、町並みの保全、賑わいの創出が図られるものと認識している。

加えて、吉久地区が重伝建に選定されれば、その地区における歴史的な資源の利活用により、町並み保全などにつなげることができる。

- 計画（案）の概要版には、赤レンガ建物の記述がない。予算を投じて耐震診断などを行っていくことから、しっかりとした方向性を示していく意味においても赤レンガ建物について明記してほしい。
- △ 今回お示ししているのは概要版であり、パブリックコメント実施の際には、本編も用意している。
- 分量が多い本編を見る方は少ない。赤レンガ建物の存在がわかるようにすればいい意見も出てくることが期待されるので配慮いただきたい。（要望）
- 高岡御車山会館の入館者はこれまで5万人台で推移してきたが、今年度はコロナの影響もあり、1万3千人程度となっている。そのなかで現場の意見として、最近、小中学校の来館が目立つと聞いた。コロナ禍で環境が激変するなか、多額の投資により建設した市内の観光施設が生きるよう、各観光施設の運営の在り方も含めて検討すべきと考えるが。
- △ 高岡御車山会館については、コロナ禍で県外からの来館は見込めないなかで、校外学習として利用されることが増えている。これは県内の観光施設を知ろうという動きであると認識している。御車山会館は、単体としてまちなかの観光拠点施設の1つであるが、日本遺産の構成文化財関連施設としてもPRしている。本市としては、加賀前田家文化のストーリーの中で、さらには「万葉」も含めた流れの中で、多くの方に高岡の魅力や歴史を知ってもらいたいと考えている。また、これまで御車山会館ではAR技術導入も図ってきており、今後ともPRしていきたい。

〈 当局から、次のとおり報告・説明があった。 〉

〔教育委員会〕

・ウィズコロナ時代における歴史・文化資産を活かしたまちづくりについて

〈 委員からの質疑等はなかった。 〉

2 その他

〈 委員からの質疑等はなかった。 〉

〈 以上で委員会を閉じた。 〉

歴史文化・観光対策特別委員会 当局説明員（14名）

副市長	河村 幹治		
市長政策部長	鶴谷 俊幸	都市創造部長	堀 英人
市長政策部次長 都市経営課長・広域連携推進室長	久郷 聡	都市創造部次長	根上 幹雄
文化創造課長	寺井 知恵	都市創造部次長 参事	竹内 悟
		都市計画課長	日名田 尚明
産業振興部長	福田 直之		
産業振興部次長	柳原 隆	教育長	米谷 和也
観光交流課長	長井 剛志	教育次長 参事	杉森 芳昭
		生涯学習・文化財課長	大野 洋靖